修学旅行につながる平和学習として、尾久の歴史を学びました。

2年生 尾久初空襲 講演会　11月28日（金）

現2学年は、「平和学習」を探究的な学習のテーマのひとつにしており、3年次の修学旅行では訪問地として「広島」を予定しています。そこで今回は、地元である荒川区で「尾久初空襲」を語り継ぐ活動している方々3名をゲストティチャーにお迎えし講演会を実施しました。

太平洋戦争時下の1942年4月、東京や名古屋、神戸などが初めての空襲に見舞われました。このときに、荒川区が被害を受けた空襲が「尾久初空襲」です。その3年後に終戦を迎えるのですが、開戦からわずか四ヶ月での本土直接攻撃ということで、日本側の衝撃は大きく、当時は口止めをされ、新聞でも「わが損害は軽微」と報じられました。このため、あまり語られることもなく、地元でも長く忘れられていました。その後、「尾久初空襲を語り継ぐ会」の方々などにより、語り部活動が行われるようになり、改めて知られるようになりました。

始めに、東京都公認ヘブンアーティストである三橋とらさんが、被災体験をもとにした紙芝居を実演、空襲の日のことが実に生々しく、自分がそこにいるような感覚になる程でした。続いて、「尾久初空襲を語り継ぐ会」の瀬野喜代さんから、尾久初空襲（ドーリットル空襲）の概要を、スライドを使いながら説明いただきました（校内での資料展示も行いました）。最後に空襲を実際に経験した堀川喜四雄さんが、ご自身の体験とともに、空襲で亡くなった友人へ宛てた手紙を朗読いただきました。その後の質疑応答では、活発なやり取りがなされ、理解を深めることができました。

戦後80年あまりが過ぎ、当時を知る方も少なくなり、尾久初空襲の語り部も堀川さんだけだそうです。そうしたなかにあって今回の講演会は、これからの時代を担うみなさんが直接話を聞ける貴重な機会でした。今回学んだことをしっかりと受け止めながら、「平和学習」をさらに進めていきましょう。ご協力いただきました3名の講師の皆様、ありがとうございました。